

ル山路ノ雪、甲冑ニ洒ギ、鎧ノ袖ヲ翻シテ、面ヲ撲コト烈シカリケレバ、士卒寒谷ニ道ヲ失ヒ、暮山ニ宿無シテ、木ノ下岩ノ陰ニシ、マリアス、適火ヲ求得タル人ハ、弓矢ヲ折燒テ薪トシ、未友ヲ不離者ハ、互ニ抱付テ身ヲ暖ム、元ヨリ薄衣ナル人、餉事無リシ馬共、此ヤ彼ニ凍死テ、行人道ヲ不去敢、彼叫喚大叫喚ノ聲耳ニ滿テ、紅蓮大紅蓮ノ苦ミ眼ニ遮ル、今ダニカ、リケリ、後ノ世ヲ思遣ルコソ悲シケレ、河野土居得能ハ、三百騎ニテ、後陣ニ打ケルガ、天ノ曲ニテ、前陣ノ勢ニ追殿レ、行ベキ道ヲ失ニ、鹽津ノ北ニヨリ居タリ、佐々木ノ一族ト熊谷ト、取籠テ討ントシケル間、相カ、リニ懸テ皆差違ヘントシケレドモ、馬ハ雪ニ凍ヘテハタラカズ、兵ハ指ヲ墜シテ弓ヲ不控得、太刀ノツカヲモ拳得ザリケル間、腰ノ刀ヲ土ニツカヘ、ウツスシニ貫カレテコソ死ニケレ、

〔北越雪譜 二編〕初夏の雪

我國

後越

の雪、里地は三月のころにいたれば、次第々々に消、朝々は

凍こと、鐵石の如くなれども、日中は上よりも下よりもきゆる、月末にいたれば、目にも留るほど

に、昨日今日と雪の丈け低くなり、もはや雪も降まじと、雪圍もこ、かしこ取のけ家のほとり庭などの雪をも堀すつるに、雪凍りて堅きゆる、雪を大鋸にて大鋸里言ひきわりてすつる、その

四角なる雪を脊負ひ、あるひは擔持にするなど、暖國の雪とは大に異り、雪に枝を折れじと、杉丸太をそへて、まばりからげおきたる、庭樹なども解ほどけば、さすがに梅は、雪の中に蒼をふくみ

て、春待がほなり、これ春の末なり、此時にいたりて、去年十月以來暗かりし座敷も、やうく明くなりて、盲人の眼のひらきたる心地せられて、雛はかざれども、桃の節供は名のみにて、花はまだ

つばみなり、四月にいたれば、田圃の雪も斑にきえて、去年秋の彼岸に蒔たる野菜のるる、雪の下に蒔いで、梅は盛をすぐし、桃櫻は夏を春とす、雪に埋りたる泉水を堀いだせば、去年初雪より以

來二百日あまり黒闇の水のなかにありし、金魚緋鯉もつはなど、うれしげに浮泳も言やれくうれしやといふべし、五月にいたりても、人の手をつけざる日蔭の雪は、依然として山をなせり、況や